Ｆ特別支援学校（知的障害）

（１）学校の概要

Ｆ特別支援学校（知的障害）は、寄宿舎を備えた知的障害を主に対象とする特別支援学校である。自然に囲まれた環境にあるが、公共交通機関の便が悪いことなどから通学する児童生徒は少なく、その多くが寄宿舎生活をしながら学校に通っている。

そのため、児童生徒の在籍数は、小学部全体で９名、中学部で８名、高等部で 31 名と小学部、中学部の児童生徒数が少ない状況にある。特に小学部では、２年間新規の入学者がいないとのことだった。在籍する児童生徒は、自閉症を併せ有する場合が多く、小学部の教室内も学習ゾーンやクールダウンのゾーンなど構造化が図られていた。

小学部と中学部は１階に位置しており、２階にすぐ寄宿舎がある。したがって、寄宿舎からの登校は寄宿舎をでて、階段を下りるとすぐ教室という構造であった。

また、訪問教育も行っており、担当教員が訪問し、通学が難しい状態にある児童生徒の自宅で授業を行っている。

学校としては、「恵まれた時間と空間を存分に活用し、強く生きようとする心と体づくりに努め、社会にしていく児童生徒を育成する。」という教育目標を掲げている。

（２）ICT 活用の状況

学校内は無線 LAN の電波が利用可能な状態で、授業での活用では AppleTV 経由で iPad の画面を液晶ディスプレイに表示させる環境整備がされている。iPad は全部で 25 台所有されており、有料アプリについては現在のところ情報に関する研究会から寄付された iTunes カードやその他の寄付での購入でまかなってきたが、納入業者が iTunes カードを取り扱うようになったため、今後は切手購入と同様の手続きで購入しアプリの導入も可能な体制となっているとのことだった。

（３）事例

１）プレゼンテーションソフトウエアを使った音楽の授業の事例

小学部の音楽の授業だった。AppleTV に iPad 上の Keynote で作成したプレゼンテーションを表示し、題材である「南の島のハメハメハ大王」や「雨だれ」の歌詞の内容や曲のイメージを想像させたり、児童がどういうように情景を思い浮かべたかを発表させたりした。

木琴やシロフォン等の鍵盤楽器を使って合奏も行った。曲に全員で合わせられた実感が持てるように、鍵盤を画面に映し、叩くタイミングがわかる様に曲に合わせて鍵盤の色が変わるように提示していた。児童が、曲を聴きながら画面を見て、どこを叩けば良いのかがわかる様に手がかりが視覚的に示された実践である。

図 4-2-5 プレゼンテーションソフトウエアを使った音楽の授業場面

２）プレゼンテーションソフトウエアを使った校外学習の事前学習の事例

校外学習の事前学習における Keynote 活用では､アニメーションによって時系列にそって、何を準備するのかや、何をするのかを説明する事例である。アニメーションで説明があることから、紙に書いたものよりも、児童が集中して取り組むことや、視覚情報によってより理解し易いという効果があった。

３）訪問教育での活用事例

訪問教育においても iPad を活用している。活用の仕方は、学校での特別活動や全校集会での様子を iPad のカメラで記録し、学校の児童生徒がどのような活動をしているのかや、特定の行事の際に学校に登校する事前学習に活用している。

（４）特徴的な点に関するまとめ

この学校での ICT 利用は iPad を中心にしたものである。授業における利用では Keynote を

AppleTV を介して液晶パネルに映し出し、知的障害のある児童生徒へ学習内容を具体的にイメージさせることを目的としている。授業内容は生活単元学習や校外学習の事前学習な

どに用いられており、実際の活動場面で、具体的にどういった行動をとれば良いのか、あるいは事前に起こる状況を説明してその場でどう行動すれば良いのかを分かり易く示すために利用されている。

また、この学校の特徴としては、ICT 機器の活用が授業のみではなく、放課後に寄宿舎で iPad を活用しており、ICT の楽しさや有用性が日常的に児童生徒に浸透することで、授業での活用がより有効に進められていると考えられた。

（横尾俊）

※　本事例（特別支援教育教材ポータルサイト掲載事例）は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「C-94　障害のある児童生徒のための ICT 活用に関する総合的な研究－学習上の支援機器等教材の活用事例の収集と整理－」（平成 28 年 3 月），80 -81 に記載された内容である。